

あなたと 博物館

No. **248**
2024.06.15

特集：松本市立博物館企画展
「生物多様性と松本一すぐとなりにあるワンダーランドー」



乗鞍高原・どじょう池（5月下旬）



Matsumoto City Museum

松本市立博物館企画展

「生物多様性と松本
—すぐとなりにあるワンダーランド—」2024.
7.6^{sat}
▼
9.2^{mon}

世界にはさまざまな姿形をした生きものたちがいます。彼らは互いに食べたり、利用したり、競合したりと影響しあいながら生活しています。このような生きもの同士の違いと、そのつながりを「生物多様性」といいます。そして私たち人間は、生物多様性からさまざまな恵みを得て暮らしています。

その生物多様性は、近代以降の人間の活動により急速に失われ始めました。それに対する国際的なアプローチとして「生物多様性条約」が締結されています。昨今話題の持続可能な開発目標・SDGsの中でも「15：陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」として生物多様性の保全に対するアプローチが盛り込まれています。

私たちの暮らす日本は、世界でも有数の生物多様性の高い地域「ホットスポット」です。そして松本市とその周辺は、高山から平地まで広がる多様な環境にさまざまな生きものが生息していることから、全国的に見ても生物多様性が高い地域、「ホットスポット」の中の「ホットスポット」と言えます。この生物多様性を守るために、平成28年には「松本市生物多様性地域戦略『生きものあふれる松本プラン』」が制定されています。そんな「松本市の宝」ともいえる生物多様性を紹介する企画展示です。

第1章 生物多様性とは

多様性 (diversity) という言葉のとおり、生きものたちはその姿かたち、暮らす場所、行動など実に多種多様です。それは長い時間の中で、お互いに関わり合いながら形作られてきました。

そんな生物多様性を実感できるよう、国内外のさまざまな生きものの写真や標本を展示します。多種多様な生きものたちの世界の一端に触れてみてください。



生物多様性の宝庫・アマゾンの生きものたちを
写真家・山口大志氏の作品で紹介



捕食者から逃れるため
擬態をする昆虫

第2章 私たちへの恵み

多様な生態系と生きものたちから、私たち人間は多くの恵みを受けて生活しています。「生態系サービス」と呼ばれるその恵みを、松本市にゆかりのあるものを中心に紹介します。



乗鞍で発見されたノリクラアザミ



リンゴ園では養蜂のミツバチや野生のハチなどが受粉を行う

第3章 生きものあふれる松本

実際に松本市にはどのような自然が広がり、どんな生きものがいるのでしょうか。

市内の特徴的な自然がある場所、自然を観察しやすい場所をピックアップしながら、自然環境の広がりや、そしてそこに暮らす代表的な生きものたちを紹介します。

第4章 変わりゆく環境

生物多様性は、私たち人間の手によって急速に失われつつあります。

すでに失ってもう戻らない生きものたち、これから失ってしまうかもしれない生きものたちの貴重な記録である標本と、変わりゆく松本市の様子を紹介します。



かつては奈川に生息していたオオウラギンヒョウモン

第5章 未来に向けて

生物多様性を未来に残すために何ができるのでしょうか。松本市の取り組みやさまざまな活動をしている市民団体を紹介します。

松本市立博物館本館では久しく扱われていなかった自然史系の展示です。生物多様性の世界と松本市に暮らすさまざまな生きものをご覧ください。

(松本市立博物館／山と自然博物館 学芸員／内川 潤季)

多くの人の目があるということ：観察会での新発見

1 ある自然観察会にて

松本市山と自然博物館では、館があるアルプス公園にて、定期的に市民向けの自然観察講座を行っています。令和5年4月16日、この日は植物を中心に春の生きものを観察する「春の自然観察会」でした。

春はさまざまな植物の開花・芽吹き季節です。そのうちの一つとして、イタヤカエデ※を観察していたところ、ある参加者のかたから「この昆虫はなんですか?」と声をかけられました。見るとそこにはイタヤカエデの枝を歩く、体長1cmに満たない程度の鮮やかな黄色い昆虫が。葉に止まったところを、観察会の記録として残そうと撮影したものが下の写真です。



色合いや大きさは見慣れないものの、形態的に「ヒラタハバチ」と呼ばれる昆虫だろうということは、その場で分かりました。

※このイタヤカエデはのちほど詳しく調べていただいたところ、本来は分布していない亜種エゾイタヤ(学名: *Acer pictum* subsp. *mono*) であることが分かりました。樹高があまり高くないことから、おそらくアルプス公園が拡張整備された平成19年(2007) ごろに植栽されたものと考えられます。

2 原始的なハチの仲間：ハバチ

ハチと聞くと、スズメバチやアシナガバチなど毒針を持つ危険な昆虫を思い浮かべる人も多いと思います。しかし、ハチ目の昆虫の中で、外敵への攻撃手段としての毒針をもつものはほんの一部です。毒針の元となったのは卵を産むための器官・産卵管で、原始的なハチの仲間では、植物の中に卵を産み付けるために使われていたものです。それが進化の過程で用途が変わってゆき、私たちのよく知る毒針になります。その原始的な形態を今でも残しているハチの仲間、樹木の幹を

食べるものはキバチ、葉を食べるものはハバチと呼ばれています。バラを育てている方なら「チュウレンジバチ(ハバチ)」と呼ばれる害虫をご存じかもしれません。

そのような解説をして、「もしかしたらこの木に産卵にきたのかもしれないね」と話しているうちに、ヒラタハバチはいなくなっていました。後で別の写真を見てみると、やはり、腹端を葉の方に曲げて産卵をしている様子でした。



3 謎のヒラタハバチの正体

ヒラタハバチは、ほかのハバチに比べて扁平な体をしています。春先から初夏に姿を現すものが多く、植物の葉に産卵し、幼虫は葉を丸めるなどして巣をつくります。成長した幼虫は地面に潜って越冬し、翌年蛹さなぎとなって羽化する、という生活サイクルの昆虫です。

さて、観察会の終了後、このヒラタハバチが何であるかを図鑑で調べてみることにしました。まず、単純に見た目で調べようと、鮮やかな黄色い姿を頼りにページをめくりましたが、該当するものがいません。手元に標本があれば、細部の特徴から調べられますが、写真しかありません。

もう一つの重要な手がかりとして、幼虫が食べる植物(寄主植物)があります。植物を食べる昆虫というのは、食べられる植物が限られることが多いからです。そこで、イタヤカエデを食べるヒラタハバチを調べたところ2種類が該当しましたが、どちらもまったく違う形態をしています。

そして、図鑑とインターネットの情報からたどり着いたのは、シロズヒラタハバチ(学名: *Chrysolyda leucocephala*)。日本での発見記録が20例ほどしかないという希少種で、寄主植物も分かっていませんでした。

4 まさかの発見とその後

急いでイタヤカエデに戻って、あらためて卵があることを確認しました。専門家を調べ、国立科学博物館名誉研究員の篠原明彦氏と、篠原氏との共同研究を数多く行っている長野市在住の小島治好氏に連絡をとることができました。小島氏は数多くのハバチ飼育の実績があり、見つけた卵を託すことができました。

残念ながら、その卵の幼虫は孵化後まもなく死んでしまったのですが、のちに同じ木で何匹かのヒラタハバチの幼虫を見つけることができました（次写真）。この幼虫は葉を筒状に丸めた巣を作っていて、既知のイタヤカエデを食べる2種類のヒラタハバチの巣と違う形をしていることや見た目の違いなどから、シロズヒラタハバチの幼虫であることがほぼ間違いありませんでした。そして幼虫たちは、小島氏の手で飼育され、無事に土に潜りました。



この一連の出来事を含めて、シロズヒラタハバチに関する情報を篠原・小島両氏と共同でまとめ、昨年発表しました。謎だった希少種の生態が解明されるといって、観察会をきっかけとした思わぬ大発見でした。

そしてこの春、冬を越した幼虫たちから成虫が羽化しました（次写真：小島氏提供）。この羽化した個体の標本は、前ページで紹介した企画展でも展示予定です。なお、このハバチの標本は時間が経つと鮮やかな黄色は失われ、白くなってしまいます。黄色いのに「白頭」と名が付いたのはこのためです。あまりに希少なため、図鑑の標本写真も白いもので、色を頼りに調べられなかったのです。



5 多くの人の目があるということ

今回の発見にいたるきっかけは、偶然のものでした。担当者が観察会でイタヤカエデを見ると決めなければ、あの木には行かなかったですし、参加者の方が声をかけてくださらなければハバチの存在に気付かなかったでしょう。

今回はたまたま、生物・昆虫という分野でしたが、世の中には偶然による発見は数多くあります。そういった偶然を引き当てるのに必要なのは試行回数を増やすこと、つまり、より多くの機会をつくること・より多くの人が見ることでと思います。その役割を果たすことが、博物館の務めの一つであることを再認識した次第です。

謝辞

本記事の作成にあたり、ご協力いただいた篠原氏・小島氏に感謝いたします。また、観察会でシロズヒラタハバチを発見した赤羽信介氏をはじめ、関係各位にあらためてお礼申し上げます。

《参考文献》

内藤親彦・篠原明彦・原 秀穂, 2020. 日本産ハバチ・キバチ類図鑑. 北海道大学出版会.

Shinohara, A., Uchikawa, J. & Kojima, H., 2023. Host plant, larva and distribution of a rare leaf-rolling sawfly, *Chrysolyda leucocephala* (Hymenoptera: Pamphiliidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 29(1): 177-182.

Shinohara, A., Uchikawa, J. & Kojima, H., 2024. Adult sawflies of *Chrysolyda leucocephala* (Hymenoptera, Pamphiliidae) emerged, a postscript to Shinohara *et al.* (2023). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 30(1) (in press).

(松本市立博物館／山と自然博物館
学芸員／内川 潤季)

企画展「空穂と源氏物語」 —空穂も愛した物語—

窪田空穂記念館の秋の展覧会では、今年のNHK大河ドラマで取り上げられた紫式部の『源氏物語』をテーマに、企画展「空穂と源氏物語-古典文学の世界」を開催いたします。

窪田空穂は歌人として広く知られていますが、国文学者としても数多くの優れた研究を残しています。その中で、今回は源氏物語研究を取り上げます。

空穂が『源氏物語』に出会ったのは18歳の時、当時をこのように振り返っています。「世の中にはこうした面白い本があるのだ。どうしてもこの物語全部を味読し尽そう、と芯から思ったのであった。源氏物語は筆者（註：空穂）にとって初恋の相手となったのである」（昭和37年（1962）、『春秋』）

本展覧会では、空穂の著作『完訳版現代語訳源氏物語』各巻をはじめ、貴重な自筆原稿を展示いたします。写真の自筆原稿「若菜上」には、何十か所もふせんが張り付けてあり、空穂の並々ならぬ熱意とエネルギーが感

じられます。

また、会場内では、近年収蔵した資料を公開する「最新収蔵資料公開展」も同時開催します。

例年ですと、窪田空穂記念館向かいの窪田空穂生家の庭園も秋の景色に移り変わる頃です。是非、こちらも併せてお楽しみください。皆様のご来館をお待ちしております。

（松本市立博物館／窪田空穂記念館

学芸員／會田 美保）



窪田空穂自筆原稿「若菜上」

企画展『空穂と源氏物語—古典文学の世界』

〔会 期〕 9月6日（金）～10月27日（日）

午前9時～午後5時（入室は午後4時30分まで）

〔会 場〕 窪田空穂記念館

〔料 金〕 通常観覧料（高校生以上 310 円・中学生以下無料）

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

「収蔵品刀剣展」より

1 青沼家伝来の太刀と拵ごしらえ

3月16日（土）から31日（日）まで「収蔵品刀剣展」を開催しました。その展示の目玉としたのが、寛文10年（1670）に源信吉が作刀した太刀です。短い刀が好まれた時代にあって、この太刀は97.2cmと、特別に長い刃長となっています。詳細はわかりませんが、注文主の強い意志を刀匠が叶えたものでしょう。拵きよは、鞘つかにも柄にも皮が使われ、柄巻きは細かい菱巻きで、質実剛健、勇壮な作りとなっています。



2 松崎家伝来蜻蛉文大小拵



大小とは、武士が登城する際に腰に差す、刀と脇差のセットのことです。これは、戸田家臣松崎家に伝わる大

小拵で、どちらにも蜻蛉の模様が施されています。トンボは前にしか進まず退かないことから「勝虫」と呼ばれ、武家の装飾模様として好まれました。幕府の力が強まり体制が強化される反面、侍の精神を表すものとして、刀の装具は個性的で美しいものになっていきました。

（松本市立博物館 学芸員／高木 美保子）



柚木沙弥郎さんと松本

はじめに

染色家の柚木沙弥郎さんが、今年1月31日に101歳の生涯を閉じました。柚木さんは松本高等学校の卒業生で、高校卒業後も松本と深いつながりがありました。ここでは、柚木さんの経歴および松本とのかかわりを中心に紹介します。

1 柚木沙弥郎さんについて

柚木沙弥郎さんは、大正11年(1922)に東京田端で生まれました。松本高等学校を卒業後、東京帝国大学に入学しましたが、翌年には学徒出陣します。終戦後に勤務した大原美術館で、柳宗悦が提唱する「民藝」に出会うとともに、芹沢銈介の型染めカレンダーに魅せられたことから芹沢に弟子入りし、復学した東大を中退して染色の道を志すことになりました。それとともに、女子美術大学で後進の指導にもあたりました。

100歳を超えても創作への情熱は衰えることなく、最近では令和5年に日本民藝館で個展を開催しています。また、作品は型絵染だけにとどまらず、版画、絵本など多岐にわたりました。

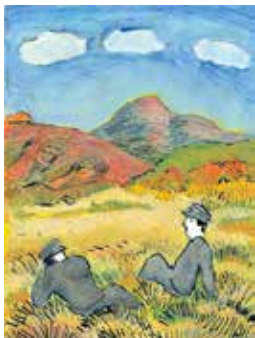
2 柚木さんの松本高等学校時代

柚木さんは、昭和15年(1940)4月に松本高等学校に入学します。その後、戦時体制への移行に伴う高校修業年限の短縮により、昭和17年(1942)



絵はがき原画「青春群像」

9月に卒業することになりました。わずか2年半の高校生活でしたが、この頃の事を柚木さんは、「この輝く日の



絵はがき原画「秋天王ヶ鼻」

光と清らかな大気の溢れる松本の四季の美しさを朝な夕なに楽しむことができたのは、東京育ちの私にとって生涯忘れることのない青春の思い出です。」と述べています。その思い出は旧制高等学校記念館で販売している絵はがきにも表現されています。

3 柚木さんと松本の民藝

松本の民藝運動は、柳宗悦の民藝運動に共鳴した三代澤本寿や丸山太郎、池田三四郎、下条寛一などを中心に展開されました。

柚木さんは、芹沢銈介主宰の「萌木会」で三代澤本寿の後輩であり、このような民藝の縁が柚木さんと松本とを再びつなぎました。そして、柚木さんと松本の民藝の人々とのかかわりは、次第に松本のいろいろな人に広がっていきました。

柚木さんが松本の商店からのデザイン依頼などを快く引き受けてきたことによって、今でも松本のさまざまなところで柚木さんの作品をみることができます。



ちぎりや工芸店 絵はがき「松本の思いで」

おわりに

旧制高等学校記念館のイメージキャラクターともいえる「パンカラ君」も、柚木さんのデザインです。

これからは柚木さんの新作をみることはできませんが、松本の人々の身近にある柚木さんの作品は、いつも私たちをあたたかい気持ちにさせてくれます。

柚木さんのご冥福をお祈りいたします。

(旧制高等学校記念館 学芸員／鈴木 美恵)



パンカラ君

【参考・引用文献】

松本市美術館『柚木沙弥郎のいま』 2020年

松本市美術館『型絵染 三代澤本寿 生誕101年展』 2010年

長野県民藝協会『信州民芸 第11号』 2017年

柚木沙弥郎・熱田千鶴『柚木沙弥郎のことは』 2021年 グラフィックス社

転入・新規採用 よろしくお願ひします。

係長	柳本 真理	(芳川地区地域づくりセンター→市立博物館)
主事	宮下明日香	(生涯学習課→市立博物館)
事務員	竹藤 敏	(市立博物館)
会計年度任用職員(館長)	丸山 丈晴	(学校施設担当課長→考古博物館)
会計年度任用職員	會田 美保	(窪田空穂記念館→市立博物館)
会計年度任用職員	本木 昇	(四賀の里クリニック→旧制高等学校記念館)
会計年度任用職員	秋山多恵子	(馬場家住宅)
会計年度任用職員	堀 東子	(四賀化石館)

課内異動 改めてお願ひします。

主査	石井 佑樹	(市立博物館庶務→市立博物館事業)
会計年度任用職員	大島 浩	(四賀化石館→旧山辺学校校舎)
会計年度任用職員	宮澤 良知	(旧制高等学校記念館→はかり資料館)
会計年度任用職員	鈴木 美恵	(市立博物館→旧制高等学校記念館)

退職・転出 お世話になりました。

係長	櫻井 了	(市立博物館→文化財課)
主任	宮下 慶祐	(市立博物館→本郷公民館)
主事	原澤 知也	(市立博物館→美術館)
会計年度任用職員(館長)	河内 正弘	(考古博物館→松原地区公民館)
会計年度任用職員	岡野 真樹	(旧山辺学校校舎→退職)
会計年度任用職員	朝岡由美子	(はかり資料館→退職)
会計年度任用職員	高山 峻一	(旧制高等学校記念館→退職)
会計年度任用職員	関澤 智子	(馬場家住宅→退職)
会計年度任用職員	藤原 裕希	(歴史の里→美術館)

ガイドコーナー はんでんぼく

※申込み・問合せは各館へお電話ください

展示スケジュール

詳細はホームページへ! <https://www.matsu-haku.com/>

館名称	7月	8月	9月
松本市立博物館	■企画展「生物多様性と松本—すぐとににあるワンダーランド—」 7/6(土)～9/2(日)		
松本市時計博物館		■夏季特別展「美しき古時計とクラフト時計の世界」 7/27(土)～9/8(日)	
旧制高等学校記念館	■第60回あがた美術会作品展 6/22(日)～7/28(土)		
窪田空穂記念館	■七夕さま「星に願いを」 7/7(日)～8/7(日)		■企画展「空穂と源氏物語—古典文学の世界」 9/6(金)～10/27(日)
重要文化財馬場家住宅	■季節展示「七夕人形が揺れる縁側」 7/6(土)～8/12(日)		

※料金は通常観覧料 ※月曜休館(休日の場合は翌平日)

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

企画展「生物多様性と松本—すぐとににあるワンダーランド—」

会 期 7月6日(土)～9月2日(月)
午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで)
会 場 市立博物館2階特別展示室
閉室日 毎週火曜日
観覧料 大人1,000円 大学生700円 高校生以下無料 ※常設展との共通券のみ

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

七夕さま「星に願いを」

明治期の面影を伝える空穂生家の縁側で短冊に願いを込めて書いてみませんか…。
会 期 7月7日(日)～8月7日(水)
会 場 窪田空穂記念館
窪田空穂生家(窪田空穂記念館向かい側)
観覧料 通常観覧料(大人310円 中学生以下無料)
生家のみ観覧無料

企画展「空穂と源氏物語—古典文学の世界」

会 期 9月6日(金)～10月27日(日)
会 場 窪田空穂記念館
観覧料 通常観覧料(大人310円 中学生以下無料)

馬場家住宅から ☎0263-85-5070

季節展示「七夕人形が揺れる縁側」

季節展示の会期中、普段は閉じている「中門」を特別に開放します。中に広がる「坪庭」から「七夕人形が揺れる縁側」の風景をご鑑賞ください。
会 期 7月6日(土)～8月12日(月)
会 場 重要文化財馬場家住宅 主屋・坪庭
観覧料 通常観覧料(大人310円 中学生以下無料)

時計博物館から ☎0263-36-0969

夏季特別展「美しき古時計とクラフト時計の世界」

当館所蔵の古時計コレクションに加えて、市内外のクラフト作家が一点一点製作したクラフト時計を展示します。時計製作の洗練された技術とディティールの美しさをじっくりとご覧ください。
会 期 7月27日(土)～9月8日(日)
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
会 場 時計博物館 3階企画展示室
観覧料 通常観覧料(大人310円 小中学生150円)

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

第28回夏期教育セミナー

今回は「伝統校の自治」をテーマとして、講演会や研究発表会を行います。
日 時 ①1日目:講演会
8月31日(土) 午後1時～5時
②2日目:研究発表会
9月1日(日)
午前9時30分～午後0時30分
会 場 あがたの森文化会館 講堂ほか
料 金 無料

旧山辺学校校舎から ☎0263-32-7602

市民芸芸員による戦争紙芝居上演

日 時 8月3日(土)
1回目:午前10時50分～11時20分/
2回目:午後0時45分～1時15分
会 場 教育文化センター2階 休憩コーナー
料 金 無料
申込み・旧山辺学校校舎(当日参加可)
問 合 せ

あとがき

4月より新規採用となりました。これから何卒よろしくお願いいたします。
転出入もあり、今年度も新体制での始動となった博物館。私にとっては見るものすべてが新しく、一日一日が初めての経験です。職員一同、心をひとつにして事業に取り組んでいきます。

(松本市立博物館 竹藤 敏)

あなたと博物館 No.248

発行年月日/令和6年(2024)6月15日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0874 松本市大手3丁目2番21号
Tel.0263-32-0133
URL: <https://www.matsu-haku.com/>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp
印刷 川越印刷株式会社



松本市立博物館
Matsumoto City Museum